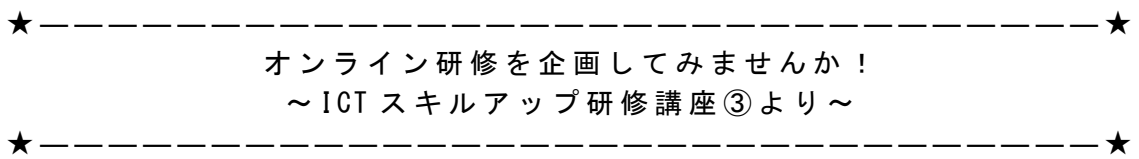




いわて マナビィ マガジン

No. 251 (令和4年度第13号) 2022.10.21

- <<< 本号の内容 >>>
- ◎ オンライン研修を企画してみませんか！
～ICTスキルアップ研修講座③より～
 - ◎ 「いわて」のマナビィ ミニ講座⑫
「鉄人のまちの世界遺産！」(釜石市)



オンライン研修を企画してみませんか！
～ICTスキルアップ研修講座③より～

10月11日・12日・14日に実施した「ICTスキルアップ研修講座③」では、市町村や団体の職員、学校の教職員等、計30名の皆様に参集いただきました！

本研修会では、オンライン配信を含めた研修会等を実施するための企画段階から運営までの進め方について、当センター職員による講義と演習を行いました。今回は、その中から少しだけ紹介させていただきます。

1. オンライン研修とは

オンライン研修とは主にインターネット回線で会場と会場外の研修参加者の居場所をつないで、研修会場に行くことなく学ぶことができる研修です。

研修者は手元のテキストやPC等の画面を確認しながら研修を行います。自宅や勤務先などのPC等で受講することができます。また、録画した動画を研修参加者が後から見て研修内容を深めるといった使い方もできます。

○オンライン研修のメリット

- ・研修場所に行かずに自宅からでも研修に参加することができる
- ・コストが削減できる → 移動や宿泊に伴う費用が発生しない
- ・参加者の負担軽減 → 移動がない

○オンライン研修のデメリット

- ・研修参加者のネットワーク環境によっては快適に受講することができない
- ・実習や技術習得のための研修には向かない
- ・研修参加者の受講状況が把握できない
- ・参加者が慣れていないとグループワークがしづらい

2. オンライン研修の種類（※当センターによる分類）

（1）オンデマンド型

動画をあらかじめサーバにアップロードしておき、受講者が視聴したいときに視聴できるようにした方法です。

テレビ放送でいえば録画放送に当たります。事前に動画を編集することができること、主催側の通信環境が不安定でも実施できること、また、受講側では特別な環境がなくても視聴できることがメリットです。例えば YouTube などの動画配信を視聴する場合がこの形式です。

（2）ライブ配信型

テレビ放送の生放送に当たります。

動画視聴とほぼ同様の操作性のため、研修者側の受講準備は比較的容易です。その反面、研修が講師から研修者への一方通行になってまいります。YouTube ライブなどがこれに当たります。

（3）Web 会議システム型

双方向のやり取りができる Web 会議システムを使った研修の進め方です。

Web 会議システムの利用は近年在宅勤務の増加に伴い、急速に普及しています。双方向での会話や画像等のやり取りが可能で、研修で利用する場合は講師の話聞くだけでなく、ディスカッションやグループワークなどを行うことで、研修効果を高めることができます。「Zoom」や「Webex」、「Teams」など多くのシステムが利用されています。

（1）、（2）のような YouTube を用いたオンデマンド型やライブ配信型で実施する場合、主催者側は YouTube のアカウントを取得すれば、無料で実施できます。

また、視聴の対象者を申込者などに限定する設定もできます。ライブ配信の場合にはチャット機能を使って研修者側から講師や主催者側に質問などをすることもできますので、疑似的ではありますが、双方向のやり取りが可能です。ただし、チャット機能を利用する場合には、研修者も YouTube のアカウントを取得しておく必要がありますので、その点は研修者側の準備が増えます。

YouTube は動画、ライブ配信ともに配信する映像の解像度を調節することができますが、解像度を高めると送信する情報量が多くなるので、配信の際には通信の環境を事前に確認して行う必要があります。

（3）のような Web 会議システムを使った研修は、近年多く取り入れられています。

主催者側は事前に研修の規模に合わせて有料のアカウントを取得する必要があります。

人」と呼ばれており、釜石市は「ラグビーのまち」としても有名になりました！

さて、釜石の製鉄の原点となるのは、江戸時代に盛岡藩が建設した日本初の商用高炉「橋野鉄鉱山」です。「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として、2015年（平成27年）に世界遺産（文化遺産）に登録されました！

.....

【 橋野鉄鉱山 】（世界遺産）

（岩手・釜石が築き上げた日本の製鉄業の礎）

岩手県釜石市の山中に洋式高炉が建設されたのは、幕末のことです。開国を迫る欧米の強国と戦うために、負けない軍備が必要だと考えた日本は、欧米と同等の力を持つ鉄製の大型の大砲をつくろうと、日本各地に反射炉（金属を溶かし、大砲を鑄造する炉）や高炉を造りました。欧米のものに引けを取らない大砲を作るためには、より大量に鉄が必要となり、また、大砲に適した銑鉄を製造するために、鉄鉱石を溶かして鉄にする「高炉」が必須となりました。

岩手・釜石で洋式高炉が実用化したのには、理由があります。この地域で良質な鉄鉱石が採掘されたことと、それ以上に大島高任という盛岡藩士の存在がありました。大島は、橋野鉄鉱山の鉄鉱石（磁鉄鉱）を原料に使い、甲子町大橋に建設した洋式高炉で、高炉から溶けた鉄が流れ出す連続操業（出銑）に成功しました。

大島の指導などにより、1858年（安政5年）から1860年（万延元年）頃にかけて橋野に高炉が建設され、その後釜石地域で明治初期までに7か所13基の高炉が建設されました。

当時の橋野は国内最大級の鉄鉱山でした。現在は、採掘・運搬・製鉄に至る一連の工程を総合的に理解できる遺跡として残っています。1957年（昭和32年）には、高炉跡の範囲が我が国に現存する最古の洋式高炉として、国史跡に指定されました。

（日本の近代化に大きく貢献した橋野鉄鉱山）

橋野鉄鉱山をはじめとした釜石における洋式高炉群の成功により、明治政府は1874年（明治7年）の官営釜石製鉄所の建設を決定しました。その後、官営釜石製鉄所は民営の釜石山田中製鉄所として引き継がれ、苦難の末に製鉄業を軌道に乗せました。さらに、コークス高炉の製鉄に成功を収め、その実績は官営八幡製鉄所（現北九州市）の建設につながり、建設の際には、釜石から技師や職工が派遣され、その成功に貢献しました。

（その価値が認められいよいよ世界遺産登録へ）

2015年（平成27年）ユネスコ世界遺産委員会で橋野鉄鉱山を構成資産

に含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界遺産登録が決定しました。橋野鉄鉱山は現存する日本最古の洋式高炉跡で、幕末から明治にかけて日本の産業化の先駆けとなった重工業分野（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）の構成資産として登録されました。

[出展：岩手県世界文化遺産関係ポータルサイト]

↓↓↓↓↓

<http://www5.pref.iwate.jp/~hp0252/hashino/history.html>

★-----★

当面の研修会等実施予定

★-----★

10月24日（月）～25日（火）

放課後児童支援員認定資格研修（沿岸後期）

11月 3日（木・祝）センター合同一般公開（※小学生対象）

5日（土）～ 6日（日）

高等学校卒業程度認定試験（第2回）

9日（水） 「障がい者の生涯を通じた学習支援活動」市町村担当者研修会（※県生涯学習文化財課主管）

10日（木） 人づくり・地域づくり関係職員等研修講座（県北）

24日（木） 地域学校協働活動推進員（コーディネーター）研修会

28日（月）～29日（火）

放課後児童支援員認定資格研修（盛岡後期）

29日（火） 人づくり・地域づくり関係職員等研修講座（沿岸南部）

12月 5日（月） 子育て・家庭教育相談研Ⅱ

※当センター主催の開催要項・実施報告書は、当センターのHP「まなびネットいわて」でご覧ください。（中段の「新着情報」または上段の「事業計画・研修講座要項」内に掲載中）

↓↓↓↓↓

<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/index.html>

|||||

▶ご意見・ご感想、登録・登録解除等は下記アドレスまで

⇒ E-mail ; mag-manabee@pref.iwate.jp

▶生涯学習・社会教育関連情報は当センターHPから

⇒ <https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/index.html>

▶当センターの情報をSNSにて配信中

【 Twitter 】<https://twitter.com/manabinetiwate> Facebook・Twitter

|||||iwatemanabeemagazine|||||

発行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口2-82-13）

編 集：菊池 一洋